

瀬戸SOLAN小学校第1学年・学年通信



公園になくてもならないもの

南公園での校外学習を終え、「公園」の学習にも一区切り。
あるクラスでの一連の授業の様子を紹介します。

最初の時間。

町の中にたくさん存在している公園に存在する「モノ」を、まずは列挙してみました。

ブランコ、シーソー、すべり台、ベンチ、テーブル、手すり、看板、ライト、トイレ、水道、階段…

続いて、「分類」の段階です。

それぞれの物は、何のためにつくられたものですか。

設置されている物の、目的を問いました。

目的ごとに、公園内の設備は仲間分けが可能です。

ブランコやシーソーは、遊ぶため。

ベンチやテーブルは、休むため。

手すりやなだらかな道は、体の不自由な人のため。

それぞれ、相談しながら意見を出し合いました。

続けて、次のように問いました。

「公園」に、なくてはならないものを1つ選ぶとしたらどれですか。

話し合いは、白熱しました。

特に盛り上がったのは、次の2つの論点です。

①公園に、遊具はあるかいないか。

②公園に、トイレはあるかいないか。

議論の交通整理は私がしましたが、とにかく子どもたちの意見と意見がぶつかり合うエキサイティングな展開となりました。

お家の方々も、次号を読む前にもしよければ「必要なもの」を1つ予想してから読み進めてみて下さい。



議論の中で、ある子は「遊具は絶対いる！」と主張しました。

公園は、遊ぶところだから遊具が絶対に必要だということです。

これに反論した子が数名。

「遊具の無い公園もあるよ。」と応戦しました。

続けて、トイレの件です。

トイレは、多くの子が「必要」と考えました。

これに男子数人が真っ向から反対します。

「公園にトイレはいらんと思います。したくなったら家に帰ればいいし、どうしてもダメならそのへんですればいいと思います。」

野性味あふれる意見を聞いて、一同大爆笑となりました。

また、他の子からも「トイレがない公園もあるよ。」との声も上がって、

中々決着がつきません。

大まかに言うと「遊ぶ派」の子たちは、遊具を全面的に支持。

「休む派」の子たちは、トイレやベンチを支持しました。

そこで、1つの公園だけではなく、別の公園とも比較したり、他の人の意見も聞いた上で、再度公園に必要なものを検討しようということになりました。

ある子は、お兄ちゃんやお姉ちゃんに尋ねてきました。

ある子は、お父さんやお母さんに尋ねてきました。

自分だけの感覚ではなく、他の人に尋ねるということも生活科（社会科）において大切な学習技能です。

一番良い情報は、「人」が持っていることがほとんどだからです。

ある子は、そうやって調べてきた情報をちゃんと私に伝えてくれました。

「先生、昨日お母さんと公園にいるものを話したんだけどね、『土じゃない？』っていう話になってさ、だから、土が大切なんだと思う。」

お母さんと、そうやって話をした経験は、以前コスモスハーモニーにも書いた通り、きっとその子の中に強く残っていくことでしょう。

<https://blog.seto-solan.ed.jp/?p=4521>

そうした意見を結集し、再度公園に必要なものを検討したわけですが、これまた話し合いは白熱して決着がつきません。

そもそも、「公園にとって一番大切な目的は何か」という点において絶対的な意見の違いがある為、まとまらないのです。

そこで、次の問いをしました。

公園は、何のためにある場所ですか。

子どもたちからまず出てきたのは、先の2つでした。

「遊ぶための場所」と「休むための場所」です。

そしてもう一つ。

「避難するための場所」「お祭りなどをするための場所」という答えも出

てきました。

遊ぶ、休む、避難、行事。

公園という場所にあるいくつかの目的が判明しました。

実は、公園には大きく6つの目的があるため、ここにあと2つの項目がラインナップします。

いよいよ学習のまとめの段階です。

ここまでの学習は、私の方からは新たな情報は一切与えていません。

それでも、子どもたちは情報を集め、分類し、さらにはたくましく調査活動が続け、熱の入った話し合いを展開しました。

そしてこの学習の続きとして、子どもたちだけでは集めきれない情報を扱うことにしました。

「一斉授業」の段階です。

あらかじめ調べて考え尽くし、子どもたちの力だけではたどり着けない次元のことを体験させたり、教えたりする時にこの方法を使います。(ちょうど、今日の公園探検に行く直前にこの内容を扱いました)

公園には、色んな目的があります。

何のために公園は作られているのか、順番に見ていきましょう。

テレビ画面に写真を映し出ししながら、1つずつ説明を加えました。
まず、次の4つです。

①あそぶため

②やすむため

③ひなんするため

④ぎょうじをするため

これは、子どもたちがすでに導いた内容です。

写真を一枚一枚見せながら、改めて確認をしていきました。

ちなみに、「ぎょうじ」は色んな種類があります。

お祭りもそうですし、盆踊りもそうですし、バザーなどもそうです。

公園によって、色んな行事があることを教えました。



これはちなみにバザーの写真です。

（愛知県内や瀬戸市内でもこうした行事は行っているのでしょうか？もしご存じでしたら教えてください）

後に詳しく書きますが、公園制度が始まったのは明治の初めです。

その頃から、公園に市を集めて開いて、地域の市場を活性化させる狙いがありました。

さて、残りは2つです。

ヒントの写真を見せました。

続けて見せたのは、大都会の真ん中にある公園の写真です。

実際に通信でお見せすることはできませんが、コンテンツ上で1枚の写真に「カーテン」のようなものをつけて、情報を分割して見せました。

まず最初は、立ち並ぶビル群を。

そして次に、カーテンを全開にして公園を見せました。

見た瞬間に、閃いた子がいました。

「けしきをきれいにするためです！」

大正解です。

周りの子から、大拍手が起こりました。

例えば、大気汚染の原因になっているNO²という物質があります。

このNO²を、イチヨウの成木1本が1日に760mg吸収するとのデータがあります。(車が3km走って排出するNO²量に相当します。)

植物たちが、空気の汚れをきれいにしていると知り、子どもたちは目を丸くしていました。

「うそー！」と驚きの声を上げる子もいたほどです。

さて、これで制度としての公園の目的が出揃いました。

遊ぶ、休む、避難、行事、景観、空気。

ここで、改めて問いました。

この6つのうち、公園において一番大切な目的はどれだと思いますか？

もちろん、どれも非常に大切な目的であり、順位をつけることは難しいかもしれません。

しかし、公園制度が始まった当時は、明確な目的がありました。

その話をして、授業を終えることにしました。

『公園の誕生』（小野良平著）という本に、制度が始まった当初の目的が次のように書いてあります。

「人口稠密の都府に園林及び空地を要するは、其因由一にし足らずと雖も、第一に衛生上より論ずれば、街区相連なり軒盈相望むの間之に間在し之に連帯する開豁清潔の場所あるに非ざれば、住民日常の生活、産業より生ずる大気の汚敗を更新するの路なく、有害の悪気市区に沈滞して病夭の媒を為し其の浄除揮散を求むるも得可らず。是家に庭なく、室に窓なきに同じく、

亦身体に肺臓を欠くに異ならざるなり」

ここに示されているように、公園設置の第一の目的は「衛生」であった。

もちろん、実際にこの文章を読んだわけではありません。

本を紹介しつつ、それを見せながら易しい言葉で説明を加えました。

19世紀はコレラに代表される伝染病がたびたび大流行し、当時の大きな社会不安を作っていた為、「衛生」の役割は極めて重要でした。

その中で、都市の衛生状態を改善するための装置としての役割が、公園設置の一番大きな理由だったのです。

今のコロナ禍とも共通するような世相が、当時起きていたのでした。

公園の木々たちは、こうやって長い年月の間、変わることなく新鮮な空気を私たちの街に供給してくれています。

ここまで説明すると、多くの子がつぶやきました。

「公園の木って大切なんだなあ。」と。

その通りです、と褒めました。

もしも、最初の問いに戻って「公園にとってなくてはならないもの」を答えるなら、それは「緑」だろうと考えています。

そうした話を聞いてか、今日の公園探検ではまじまじと木を観察したり、触ったりする姿が見られました。





やさしくなでる子がいれば、ギュッと抱きしめている子も。
なんと、「ありがとうね。」と語りかけている子もいました。
素敵な公園学習の締めくくりとなりました。（渡辺道治）
（ご意見ご感想などいつでも気軽にお寄せください。）



[1 学年通信「コスモスハーモニー」読者ページ \(google.com\)](https://www.google.com)